## 属人区長の手紙 「2016年12月〕

2016/12/05

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように!

世界中に影響を与えたいつくしみの 聖年が幕を降ろして、待降節を迎 え、新たな典礼暦が始まりました。 教会は、主に向かう歩みに拍車をか けるよう励ましています。これはい つもの勧めですが、降誕祭の準備に おいては緊急を要することです。

の日々の歩みは意義のない空しいも のになってしまうでしょう。

そこで教会は素晴らしい叫び声をと げるのです。主イエスは、来てした まイエルドが説臨これと、 をとように、最初の全生涯を彩るキリスの に、大間の全生涯を彩るキリスの中間の のます。「この中間がある。 は、最初の来臨から最後を目れるです。 の来には、私たちの命と の来には、私たちの命として の安らぎであり慰めです」[ii]。

間近に迫ったベトレヘムでのイエス のご降誕を準備するこの数週間、神 が各瞬間どのように私たちに近づか れるかをしっかり理解したいと思い ます。神は、秘跡 一特にゆるしの秘 跡とご聖体一 において、同じように 祈りと慈善の業において、私たちを お待ちです。「目を覚ましなさい。 神がお出でになることを思い起こしなさい。昨日でも明日でもなく、今日、今です。唯一の真の神、『アブラハムの神、イザクとヤコブの神』は、天にいて、私たちと私たちの生活には無関心な神ではなく、私たちの所に来てくださる神です」[iii]。

この待降節の日々、私たちは、マリ アとヨゼフ、またアンナとシメオ ン、そしてメシアの到来を待ち焦が れていた旧約の全ての義人たちと歩 みを共にします。救いの歴史に表明 されている主の渇き 一主の楽しみは 「人の子らと共にいる| [iv] ことで すから― をしっかり感じ取ることに しましょう。これに応えるためにど のように努力しましょうか。絶えず 聖母と太祖聖ヨゼフに目を凝らし、 お二人が神の御子がお生まれになる のを毎日どのように熱意を込めて 待っておられたかを観想しましょ う。この素晴らしい出来事に先立つ 数カ月間のお二人の会話はイエスに

複雑で感情を煽る現代社会においては、気づかないうちに周りの慌ただしさに巻き込まれて慌てふためることを見つめることを見つめることをなるイエスが、多く至極となられるに求められるのことを理解しないと、神の無限の愛を知った

り、その愛に深く入り込んだりする ことができなくなります。

しかし、これは特殊で例外的な状況 であると想像してはなりません。主 は、キリスト者固有の通常の諸義務 を丁寧に実行することをお望みなの です。ですから、これからの数週間 一多くの国では、クリスマスの外的 な準備が盛んです―、皆さんの歩み においては、潜心して神と交わり、 寛大に喜んで隣人に奉仕することに 努めるのです。慌ただしさや買い物 一あるいは、不安定な社会状況と連 携しているであろう経済的な困窮 一、戦争とか自然災害とかの最中に あっても、神はいつもすぐそばにい てくださることを自覚しなければな りません。心の平和はこのことから 得られるのです。おいでになるキリ ストに視線を向けましょう。数週間 前に教皇様が聖アウグスティヌスの 名高い文章を引用してコメントして おられます。「『わたしは主が通り

過ぎてしまうのではないかと恐れる』。イエスに気づかずにいること。つまり、それらの困窮している小さな人々の一人の中におられる主が自分の前を通り過ぎても、それがイエスであると気づかないことを恐れるのです」[vi]。

特に、信心生活の細かな点に気を付 けて改善を図りましょう。それは神 との関わりをより親密で熱意に満ち たものにし、幼子イエスのために心 地よいゆりかごを準備することにな ります。たとえば、三位一体に受け 入れられ十字架によって救われたこ とを自覚しつつ、ゆっくりと十字架 を切ること、食卓での祝別や感謝を 自然体でしかし信心を込めて実行す ること、篤い信仰の具体的な表明と して「永遠の馬小屋・ご聖櫃| [vii] の前で丁寧な挨拶をすること、喜ん で施しをすること、12月上旬には無 原罪の聖マリアの祭日を準備しなが ら、ご像やご絵の聖母に愛情を込め て挨拶することなどが考えられます。12日に記念する聖ホアン・ディエゴにご出現になったグァダルペの聖母についての話にあるように、聖母は、単調な日々の事柄において、薫り高い、つまりbonus odor Christi[viii] キリストのよき香りに満ちた花々に出会わせてくださいます。

12月17日からイエスへの待望がいよ いよ高まってきます。「来るべき方 がおいでになる。遅れられることは ない。この世に恐れるものはない。 主は私たちの救い主だから」[ix]。 「キリストのご降誕の話に耳を傾け る際には、沈黙し、幼子イエスが語 るがままに任せましょう。幼子のみ 顔をうっとりと思い巡らし、そのこ とばを心に留めましょう。御子を腕 に抱き、御子に抱きしめられるがま まに自らを委ねれば、わたしたち は、御子によって永遠の心の平安へ と導かれるでしょう。幼子は、わた

したちの生活の中で真に欠かせないものを教えてくださいます。御子にお生まれにといる。御子とその家族は宿屋のりまることができませんでした。御子は馬小屋で隠れ場と庇護を行る。でいまるでいます。ないます。ではいるの、この光は輝のはもかからず、この光は輝のようがら神の栄光の光は輝き出します」[x]。

ちがいつも主と相対して落ち着まと相対して落ち着きと相対して落ち着きることができるでしょがったとがで過ごさかが追にしたないをを見いたとかがはいいとかはいいとかけれるでは、とないがはいいがでしたがはいいがでしょう。 をはいるというにはいいがでで残いないがはいいがでしょう。

う思ってもがっかりしなかったことを考えなさい。1931年にこう記しています。「非常に悪い状態のロバを知っている。もし牛と一緒に馬小屋知らいたなら、おとなしく創造主を礼拝する代わりに、馬小屋のわらを食べただろう」[xi]。ですから、多くの国で家に馬小屋を飾るキリスにあり、スト韓に関います。

この時季には、孤独や貧困に陥って いる人を思い、いろいろな方法で助 けることができることを忘れないよ うにしましょう。それは、何より私 たち自身に善をもたらすことなので す。この非常にキリスト教的な心遣 いに、親戚や友人、隣人や同僚を巻 き込むよう努めて下さい。いろいろ なことが考えられますが、中でも際 立ってキリスト者らしい心配りは、 オプス・デイの幾人かが、夜間に ホームレスの人たちに食べ物や飲み 物を提供しに行っていることです。

同じことが、夜を徹して市民の安全 を警備する人たちにも提供されてい ます。

最後に、11月7日の謁見で教皇様が 示してくださった愛情と、オプス・ デイの信者と使徒職に対する祝福 に、あらためて感謝したいと思りスマスにはイエス・キリス トが、教会に、教皇と全世界にある れんばかりのお恵みをもたらされる ことを確信して、教皇様とそのご 向のために祈り続けましょう。

無原罪の聖マリアへの九日間の祈りの期間中、子どもとしての心をしなるとしょう。このあましょう。を持ちましょうを表情らしからまったが記しているがイエスにまっています。この表しています。この大されたちは、喜んでありによって私たちは、喜んでおりによってもなっています。この世話をするように促されるで

しょう。すでにオプス・デイの歴史 における最初のクリスマスから私た ちに付き添っておられた創立者の としての親密な愛情について黙想 ることを忘れないでください。 割立者は神とマリアとヨゼプス 時、創立者は神とマリアとヨゼプス・ デイにやって来るはずの私たちられ たのです。

心からの愛をもって皆さんを祝福 し、より熱心に祈り、より忠実であ るようお願いします。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2016年12月1日

[i] 待降節第一主日の祈り。

[ii] 聖ベルナルド、待降節についての五つの講話、1(教会の祈り、待降節第一水曜日、第二朗読)。

[iii] ベネディクト16世、2006年12月2日説教。

[iv] 箴言 8,31参照。

[v] 聖ホセマリア、『聖なるロザリオ』喜びの第二神秘。

[vi] 教皇フランシスコ、2016年10月 12日一般謁見の講話 (聖アウグス ティヌス、説教88, 15,13参照)。

[vii] 聖ホセマリア、属人区中央アーカイブsec. A, leg. 3, carp. 3 (Camino. Edición crítico-histórica (ed.Pedro Rodríguez), Rialp, 3ª ed., Madrid 2004. p. 1051から引用)。

[viii] 2 コリント2,15。

[ix] ローマミサ典書、12月19日の入 祭唱(ヘブライ10,37参照)。 [x] 教皇フランシスコ、2015年12月 24日説教。

[xi] 聖ホセマリア、『内的覚書』181番 (1931年3月25日) (J.L.Soria, Maestro de buen humor, Rialp, 3°.ed., Madrid 1994, p.91から引用)。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchou-tegami-2016-12/(2025/10/28)